

平成25年度  
千葉大学教育学部附属中学校  
学校評価報告書

○自己評価報告書 平成26年3月1日付

○学校評議員会学校評価報告書 平成26年7月1日付

平成26年3月1日  
千葉大学教育学部附属中学校

## 1 平成25年度学校評価の基本方針

- (1) 本校の学校評価（自己評価）は、文部科学省「学校評価ガイドライン」（平成22年7月20日）に則して実施し、以下に沿って自己評価報告書の作成と公表を行う。
- ① 平成25年12月に、本校生徒・保護者・教職員（校長を除く）に対して学校評価アンケートを実施し、それをふまえて平成26年3月に、本校管理職による「学校評価（自己評価）報告書」を作成し、本校保護者に対して本校ホームページ上で公表する。
- ② 「学校評価（自己評価）報告書」について、以下の学校関係者から意見・要望等を聴取する。
- ・平成26年3月 附属学校運営会議にて千葉大学関係者（理事）・同教育学部関係者より
  - ・平成26年4月 第1回PTA運営委員会にて本校PTA役員より
  - ・平成26年5月 第1回学校評議員会にて本校学校評議員より
- 教育学部附属四校園の学校評議員会は、平成26年9月に「平成25年度千葉大学教育学部附属学校園学校評議員会学校評価報告書」を作成し、公表する予定である。
- (2) 本校の学校評価（自己評価）は、中等教育を行う学校としての一般的な評価項目についてとともに、国立大学教員養成系学部附属学校としての社会的使命及び本校の学校教育目標に照らした評価項目を盛り込んだ学校評価として行うものである。
- (3) 本校の学校評価（自己評価）は、「学校評価ガイドライン」が目的として掲げるように、本校が自らの教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図り、その説明責任を果たすことによって、保護者等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進めることを意図するとともに、学校設置者である国立大学法人千葉大学によって、その結果に応じた支援や条件整備等の改善措置が講じられ、教育水準の保証・向上が図られることを要望して行うものである。

## 2 本校学校評価（自己評価）の実施概要

### (1) 学校評価アンケートの実施

- ① 学校評価アンケートは、次の対象者に対して、それぞれ以下の項目についての5段階の評価での記入を依頼した。
- ・生徒に対して…学習指導，生徒指導，教育環境，総論
  - ・保護者に対して…学習指導，生徒指導，教育環境，総論，学校運営，附属学校としての使命
  - ・教職員に対して…学習指導，生徒指導，教育環境，総論，学校運営，附属学校としての使命
- ② 学校評価アンケートの回収率は以下の通りであった。
- ・生徒……97.6%
  - ・保護者…76.6%
  - ・教職員…100.0%

### (2) 学校評価（自己評価）報告書（本書）の作成

- ① 本報告書は本校校務室教職員が各対象者ごとにまとめた原案をもとに、本校校長の責任において総括した。その際に、学校評価アンケートに反映されていない要素をも含めた包括的な自己評価となるようにした。
- ② 本年度の学校評価アンケートでは質問項目を昨年度の15項目から、生徒アンケートで10項目、保護者アンケートで12項目に減らし、質問内容の整理を図った。なお、分析の際に、アンケート項目の「教育環境」「総論」「学校運営」「附属学校としての使命」は、「学校経営」として集約した。

### 3 学校評価アンケートの結果の概要

#### (1) 生徒アンケート

評価項目		学年	5	4	3	2	1	平均
学習指導	1 先生はわかりやすく工夫をした、充実した授業をしていると思いますか。	1年生	92	48	10	1	0	4.53
		2年生	104	54	6	2	2	4.52
		3年生	85	59	14	2	4	4.34
		全学年	281	161	30	5	6	4.46
	2 先生は一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えていると思いますか。	1年生	81	49	16	2	1	4.39
		2年生	67	68	24	8	1	4.14
		3年生	73	57	24	4	6	4.14
		全学年	221	174	64	14	8	4.22
	3 先生は自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思いますか。	1年生	103	42	5	0	0	4.65
		2年生	118	31	15	2	1	4.57
		3年生	102	42	15	1	4	4.45
		全学年	323	115	35	3	5	4.56
生徒指導	4 先生は一人一人の性格や考え方を大切に、良さを伸ばす指導していると思いますか。	1年生	72	62	11	5	1	4.32
		2年生	78	51	51	5	8	3.96
		3年生	82	52	18	5	7	4.20
		全学年	232	165	80	15	16	4.15
	5 先生は困った時に親身になって対応していると思いますか。	1年生	74	52	20	4	1	4.28
		2年生	74	51	24	8	8	4.06
		3年生	86	50	15	9	4	4.25
		全学年	234	153	59	21	13	4.20
	6 先生はルールやマナーを守り、規律や規範意識を育てる指導をしていると思いますか。	1年生	106	37	8	0	0	4.65
		2年生	93	52	18	3	2	4.38
		3年生	88	48	19	5	9	4.19
		全学年	287	137	45	8	11	4.40
教育環境	7 学校の施設・設備や備品は、安全で、よく整備されていると思いますか。	1年生	95	42	11	3	0	4.52
		2年生	99	46	15	6	1	4.41
		3年生	98	47	10	3	5	4.41
		全学年	292	135	36	12	6	4.44
総論	8 学校は自分が将来、社会に出た時に役に立つ力をつけてくれていると思いますか。	1年生	108	33	7	3	0	4.63
		2年生	107	44	16	1	0	4.53
		3年生	101	41	15	3	3	4.44
		全学年	316	118	38	7	3	4.53
	9 学校の行事や生徒会活動・学級活動、校外学習など特色ある活動になじんでいると思いますか。	1年生	117	30	4	0	0	4.75
		2年生	118	38	8	2	1	4.62
		3年生	119	30	8	5	3	4.56
		全学年	354	98	20	7	4	4.64
	10 本校に入学して良かったと思いますか。	1年生	121	25	4	0	0	4.78
		2年生	125	29	9	3	2	4.62
		3年生	132	17	8	2	5	4.64
		全学年	378	71	21	5	7	4.68

#### ①学習指導

3項目とも平均値が4.2を超えており、授業について生徒たちは概ね肯定的にとらえていると考えられる。項目2「一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えている。」は、3項目中最も平均値が低かったものの、昨年度よりも約0.3ポイント上回っていて、改善されていると考えられる。

#### ②生徒指導

今回の評価10項目中で、学年間の平均値の差が最も大きかったのが項目6「ルールやマナーを守り、規律や規範意識を育てる指導をしている。」で、3年生が1年生を0.46ポイント下回った。また、項目4「一人一人の性格や考え方を大切に、良さを伸ばす指導している。」は平均4.15、項目5「困った時に親身になって対応している。」は平均4.20で、評価10項目中で最も低い結果となったが、いずれも昨年度より、0.23ポイント、0.31ポイント上回っている。

#### ③学校経営

すべての平均値が4.4を上回り、生徒たちは肯定的にとらえていることがわかる。特に項目10「本校に入学して良かったと思うか。」は、平均値4.68で、昨年度同様の調査項目(4.50)よりもさらに上回り、今回の評価10項目中で最高の結果となった。ただし、本校入学を肯定的にとらえていない生徒が、2年生に5名、3年生に7名いることもわかり、ここがゼロになることをめざしていかなければならない。

#### 【全体的な所見】

全学年の平均値を昨年度同様の調査項目と比較すると、昨年度は4.0を下回る項目があったが、本年度は10項目すべてにおいて上回り、4.0を超えた。学年別の平均値では、10項目すべてにおいて、1年生の平均値が最も高かった。また、10項目中5項目において2年生の平均値が3年生を上回り、2項目において2年生の平均値が3年生と等しく、3項目(項目4、5、10)において2年生の平均値が3年生を下回った。

## (2) 保護者アンケート

評価項目		学年	5	4	3	2	1	平均
学習指導	1 先生はわかりやすく工夫をした、充実した授業をしていると思いますか。	1年生	63	57	13	0	0	4.38
		2年生	48	53	27	2	1	4.11
		3年生	46	38	14	3	1	4.23
		全学年	157	148	54	5	2	4.24
	2 先生は生徒一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えていると思いますか。	1年生	37	52	33	6	0	3.94
		2年生	33	41	43	10	2	3.72
		3年生	43	34	18	2	4	4.09
		全学年	113	127	94	18	6	3.90
	3 先生は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思いますか。	1年生	56	53	21	0	0	4.27
2年生		61	49	20	1	0	4.30	
3年生		51	35	12	0	2	4.33	
全学年		168	137	53	1	2	4.30	
生徒指導	4 先生は一人一人の性格や考え方を大切にし、良さを伸ばす指導をしていると思いますか。	1年生	48	60	22	1	1	4.16
		2年生	42	42	38	9	2	3.85
		3年生	58	29	14	2	0	4.39
		全学年	148	131	74	12	3	4.11
	5 先生は困った時に親身になって対応していると思いますか。	1年生	53	47	27	3	2	4.11
		2年生	50	46	29	6	2	4.02
		3年生	57	35	8	3	1	4.38
		全学年	160	128	64	12	5	4.15
	6 先生は生徒がルールやマナーを守り、規律や規範意識を育てる指導をしていると思いますか。	1年生	65	54	13	2	0	4.36
2年生		58	47	23	7	1	4.13	
3年生		51	35	15	2	2	4.25	
全学年		174	136	51	11	3	4.25	
教育環境	7 学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思いますか。	1年生	85	37	10	2	0	4.53
		2年生	60	61	12	2	1	4.30
		3年生	56	43	6	0	0	4.48
		全学年	201	141	28	4	1	4.43
総論	8 学校は生徒が将来、社会に出た時に役に立つ力をつけてくれていると思いますか。	1年生	66	51	18	1	0	4.34
		2年生	57	55	19	3	1	4.21
		3年生	54	34	14	3	0	4.32
		全学年	177	140	51	7	1	4.29
	9 子どもは学校の行事や生徒会活動・学級活動、校外学習など特色ある活動になじんでいると思いますか。	1年生	88	40	8	1	0	4.57
		2年生	77	50	8	1	0	4.49
		3年生	76	25	2	1	1	4.66
		全学年	241	115	18	3	1	4.57
	10 附属中学校に入学させて良かったと思いますか。	1年生	99	26	12	0	0	4.64
2年生		90	33	10	1	2	4.53	
3年生		81	15	7	2	1	4.63	
全学年		270	74	29	3	3	4.60	
学校運営	11 学校は情報公開や家庭との連絡・連携に努めていると思いますか。	1年生	62	52	21	1	1	4.26
		2年生	49	54	28	3	2	4.07
		3年生	56	35	9	2	3	4.32
		全学年	167	141	58	6	6	4.21
附属学校としての使命	12 学校は国立大学附属学校としての社会的使命を十分に果たしていると思いますか。	1年生	70	37	24	0	1	4.33
		2年生	50	58	22	0	0	4.22
		3年生	53	33	16	1	1	4.31
		全学年	173	128	62	1	2	4.28

## ①学習指導

項目1「先生はわかりやすく工夫をした、充実した授業をしていると思いますか。」と、項目3「先生は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思いますか。」の質問に対して、平均値が4.0を超える評価が出ており、学習指導に対するある程度の理解が得られているものと考えられる。しかし、「先生は生徒一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えていると思いますか。」の質問については、平均値が4.0以下の評価である。保護者は自分の子の学習状況が判断材料になっているものと考えられるが、この質問に対する評価は、前年度も同様に3点台であり、個別の生徒への指導のあり方を工夫することが、引き続き課題としてあげられる。

## ②生徒指導

項目4「先生は一人一人の性格や考え方を大切にし、良さを伸ばす指導をしていると思いますか。」と、項目5「先生は生徒が困った時に親身になって対応していると思いますか。」、さらに「先生は生徒がルールやマナーを守り、規律や規範意識を育てている指導をしていると思いますか。」の3項目の質問に対して、いずれも平均値で4.0を超える評価が出ている。前年度の同様の質問に対する評価は、いずれも3点台であったことから、やや改善されたと考えられる。

## ③学校経営

項目8「学校は生徒が将来、社会に出たときに役に立つ力をつけてくれていると思いますか。」と、項目9「子どもは学校の行事や生徒会活動・学級活動、校外学習などの特色ある活動になじんでいると思いますか。」の教育方針に関わる質問は、いずれも平均値が4.0を超えている。さらに項目10「附属中学校に入学させて良かったと思いますか。」の質問に対する回答が、すべての質問の

中で平均値4.60と最も高い評価となった。項目7「学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思いますか。」と、項目11「学校は情報公開や家庭との連絡・連携に努めていると思いますか。」、さらに、項目12「学校は国立大学附属学校としての社会的使命を十分に果たしていると思いますか。」の質問に対しては、いずれも平均値が4.0を超えた評価である。学校経営に対しても、保護者からのある程度の理解が得られていると考えられる。

#### 【全体的な所見】

前年度の学校評価では、質問項目すべてにおいて、いずれも第1学年が低い評価であった。この学年による特性なのか、入学して1年目による期待値の大きさに対する評価なのか、分析がむずかしかった。しかし、今年度の評価を見ると、1項目を除いていずれも第2学年が低い評価であったことから、学年特性ではないかと考えられる。

#### (3) 教職員アンケート

評価項目		5	4	3	2	1	平均
学習指導	1 教員は熱心に工夫をして、授業をしていると思いますか。	8	18	3	0	0	4.17
	2 教員は生徒一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えていると思いますか。	3	18	7	1	0	3.79
	3 教員は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思いますか。	7	14	8	0	0	3.97
生徒指導	4 教員は生徒一人一人の性格や考え方を大切に指導していると思いますか。	4	13	10	2	0	3.66
	5 生徒や保護者が困った時に、教員は親身になって対応していると思いますか。	8	14	6	1	0	4.00
	6 教員は生徒がルールやマナーを守り、規律ある生活を送れるように指導していると思いますか。	2	10	14	3	0	3.38
教育環境	7 学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思いますか。	5	17	3	2	2	3.72
総論	8 学校は生徒が将来、社会に出た時に役に立つ力をつけていると思いますか。	4	14	7	4	0	3.62
学校運営	9 教育課程や学校行事などの教育活動、入学者選抜や学校評価などが適切に行われていると思いますか。	10	11	4	3	1	3.90
	10 安全点検や保健安全対策、防災対策、情報セキュリティ対策が着実に進められていると思いますか。	14	10	4	1	0	4.28
	11 会議・打合せや校務分掌、生徒指導や保護者対応などについて、校内体制が整備され、円滑に進められていると思いますか。	4	7	11	6	1	3.24
附属学校としての使命	12 学校全体や各教科、個人の教育実践研究が意欲的に進められていると思いますか。	7	14	6	2	0	3.90
	13 教育実習指導が適切に実施されていると思いますか。	10	14	5	0	0	4.17
	14 大学・学部との連携・協力や地域との連携・貢献が積極的に行われていると思いますか。	3	17	6	3	0	3.69
	15 学校は国立大学附属学校としての社会的使命を十分に果たしていると思いますか。	4	14	8	3	0	3.66

#### ①学習指導

教育実践研究との関係もあり、授業に関しては日々、工夫・改善に努めていると自覚している教員が多い。ただし、「生徒一人一人の学習状況を考えて、丁寧に教えること」については、自己評価がそう高くない、改善の必要性を意識している。

#### ②生徒指導

多くの教員が、生徒指導上の問題が発生したときは親身になって対応していると考えている。しかし、生活の規律についての指導に課題を感じている教員が多く、また、問題を起こさないようにするための事前の指導や、問題が発生したときの教員間の連携及び協力体制が今後の課題である。

#### ③学校経営

教職員の自己評価に関しては、高評価の項目と低評価の項目とに二分されている。教育課程や学校行事などの教育活動、学校施設の整備等、学校運営全般は概ね円滑に進められていると感じている。特に、防災対策や情報セキュリティなどは定期的な研修等により、学校全体としての意識は高いと考えられる。本校の使命に関連する教育実習指導や教育実践研究は、概ね計画的に進められている。特に、教育実習指導に関する自己評価は高く、熱心に指導していることが意識されている。ただし、地域貢献に関しては教育行政との連携など、教員個々の活動はまだ少なく、国立大学法人附属学校としての社会的使命を果たすうえで、大学や教育学部との連携を強化し、活動を推進して

いくことが今後の課題である。

#### 【全体的な所見】

教員の自己評価から見て、個々の生徒に対するきめ細やかな指導，規範意識や道徳性に関する指導，校務の組織体制の整備，大学・学部との連携と地域への貢献活動及びそれを含めた国立大学附属学校としての使命の達成に，さらに改善すべき余地があると考えられる。

### 4 学校評価（自己評価）の総括

#### （1）共通項目の生徒・保護者・教職員間の比較

生徒・保護者・教職員へのアンケートで共通内容を聞いている項目1～10について，相互の比較をまとめたのが，右の表である。

学校評価アンケートにおける評価値は，「生徒＞保護者＞教職員」となって現れやすいが，本校においても10項目すべてにおいて，そのような結果となっている。

共通項目		生徒	保護者	教職員
学習指導	1 授業の創意工夫・改善	4.46	4.24	4.17
	2 個々の生徒の学力状況への対応	4.22	3.90	3.79
	3 総合的な学力の育成への対応	4.56	4.30	3.66
生徒指導	4 個に対応した生徒指導	4.15	4.11	3.66
	5 問題が生じた場合の生徒・保護者への支援	4.20	4.15	4.00
	6 規範意識・道徳性の指導	4.40	4.25	3.38
教育環境	7 施設・設備・備品等の整備充実	4.44	4.43	3.72
総論	8 社会で役立つ資質の教育	4.53	4.29	3.62
	9 学校行事・生徒会活動等の特色ある教育活動	4.64	4.57	
	10 本校入学への肯定感	4.68	4.60	

そのような傾向をふまえたうえでも，まず，「生徒・保護者」間の差が大きい項目が，

○項目2「個々の生徒の学力状況への対応」

であり，生徒自身が感じている以上に保護者の不安が大きいということである。個々の生徒の学力状況に徹底的に対応するためには，現状の人員・予算では限界がある。今後も学校設置者である大学法人に人的・予算的支援を要望していく必要がある。

なお，「生徒・保護者」での共通項目である，

○項目9「学校行事・生徒会活動等の特色ある教育活動」

○項目10「本校入学への肯定感」

では両者に大きな差がなく，高評価であって，項目3「総合的な学力の育成への対応」などとともに，本校の教育方針や特色に対しては，相応の理解が得られていると考えられる。

次に，「保護者・教職員」間の差が大きい項目は，

○項目3「総合的な学力の育成への対応」

○項目4「個に対応した生徒指導」

○項目6「規範意識・道徳性の指導」

○項目7「施設・設備・備品等の整備充実」

○項目8「社会で役立つ資質の育成」

と少なくない。推測するに，項目3・項目4・項目8は，教職員自身が，まだ不十分だ，もっとできるはずだと感じているところではないか。項目6については，もちろん個別の保護者からは，生徒の規範意識をもっと引き出すように指導して欲しいという要望を聞くことが時としてあるものの，全体としてみると，教職員が感じている問題意識が，生徒や保護者に十分に伝わっていないということであって，学校としての啓発活動が足りないということになるのではないか。項目7は，やはり教職員は日常的な施設・設備等を見慣れている分だけ，施設の破損・汚損や器材の陳腐化に気づいているということであろう。この数年間で，設備・備品等の整備充実はかなり進めてきたつもりであるが，予算的に限界が当然ある。しかし，教育は常に高い水準を求めるものであるから，これについても大学法人に必要な支出を働きかけ続けていくとともに，消耗品等に関しては，保護者に対しても相応の負

担をお願いしていく必要がある。

(2) その他の項目からの今後の課題

課題は大きく二つある。一つは、校内の校務組織と連携・協働体制をよりよくすることである。長年、言われてきていることであるが、職員室不在の教科研究室分散方式、そのことにも由来する教員間の意思疎通のむづかしさ、大学附属であることによる公立学校との学校事務の違い、教育実習指導等による附属学校特有の負担、それらを含めたもろもろの校務の多さにそもそもの要因がある。しかし、校務そのものを避けて通ることはできないものであり、事務効率の向上と校内の報告・相談体制の改善による協働意識の喚起に努めていく必要がある。

課題の二つめは、国立大学教員養成系学部附属学校としての地域連携・社会貢献活動の充実である。これについては、実際の活動実績の件数としては、次の表のようにけっして少ないというわけではない。

(件数)

分類	内容	23年度	24年度
研修指導	文部科学省・県市教育委員会・各教育事務所等が主催する研修会の講師	8	8
	県市教育研究会の講師・指導・助言	1	2
	公立学校の研究指導講師・研修講師	4	1
	教育関連公益法人・教育関連企業が開催する研修会講師	3	3
	他県の県市教育委員会からの研修講師派遣依頼の受入	3	3
	他校(県外を含む)からの研修派遣の受入	1	1
児童生徒	民間団体等の児童生徒を対象とした地域活動での指導・助言・協力	5	3
市民	市民を対象とした地域活動・行事への協力参加・運営協力	2	2
受験生	学校説明会の開催、行事等の公開	2	2
地域	公益法人・民間団体等の一般を対象とした地域活動での協力	1	1
国際交流	他国からの視察の受入	0	1
その他	文部科学省・県市教育委員会等が開催する諮問委員会の委員	6	2
	公益法人・民間団体等の運営委員・審査委員	7	15
	県市教育研究会・各種団体・連盟等の役員・運営協力	7	7
	その他	4	4
計		54	55

今後の課題は、このような活動をより多くの教職員に広げていくことである。特に、この表でいえば、「研修指導」及び「その他」の中の諮問委員会委員、運営委員・審査委員などに、本校の教職員が活躍できる場所が多数あるはずである。また、昨年度より、派遣先からの報酬ありの派遣についても、校内手続きを取ることによって通常通りの派遣ができるようになったこともあり、今後も学校経営の一環として、重点を置いていこうとするところである。

平成 26 年 7 月 1 日

平成 26 年度第 1 回学校評議員会

○日 時	平成 26 年 5 月 10 日 午前 10 時 30 分～ 12 時	
○場 所	千葉大学教育学部附属中学校大会議室	
○評 議 員	小池 拓	千葉県小中学校長会事務局中学校長会事務局長
	奥山 慎一	千葉県教育庁教育振興部教職員課長
	遠藤 悟	千葉市教育センター所長
	三上 浩司	千葉県立千葉東高等学校長
	植松 榮人 (欠席)	習志野市教育長
	佐野 善房	弁護士

(1) 学習指導及び生徒指導について

① 学習指導について

- アンケート項目 1 「工夫した、充実した授業」及び項目 3 「総合的な学力の育成への対応」の項目についての生徒・保護者の評価が高いのは、附属中学校全体の学習指導のレベルが高く、両者を両立させる授業の工夫がなされていることを物語っている。
- 学習指導に関しては、生徒・保護者とも、アンケート項目 3 「総合的な学力の育成への対応」に高評価を出しており、指導方法等への理解と満足度が感じられる。日々の授業改善が附属中の使命の一つといえる研究授業を通して、教職員に根付いていると感じられる。
- アンケート項目 2 「個々の生徒の学力状況への対応」の保護者・教職員の評価に課題が見られるとの分析だが、授業の中での個別対応には限界があろう。前年度の意見にもあったが、個別対応の在り方・活用を引き続き研究していただきたい。個別の学習相談の取り組み等の報告も期待している。
- アンケート項目 2 「個々の生徒の学力状況への対応」の評価については、保護者の期待が大きく、先生方がどこをどう改善していくかを悩みながら取り組んでいるためであろう。先生方は改善の必要性を認識しているだろうと思うので、具体的な対応策について情報交換をするなどして、共通理解を図る場を設定していくとよいだろう。
- 教育に関する先導的な研究を推進するという大きな使命を担っている中で、授業改善に努めている結果が、アンケート項目 3 「総合的な学力の育成への対応」への高い評価につながっている。現在の授業研究については、生徒・保護者から一定の評価を受けていると思われるが、今後は、「個々の生徒の学力状況への対応」などの課題に即ちその実践を積み重ねていってほしい。
- 生徒も保護者もアンケート項目 2 「個々の生徒の学力状況への対応」への評価が低いのが、当然である。生徒個々のことを知っているのは先生より生徒自身であり、わが子を知っているのは先生より親である。学校は反省はするが、先生が知らないような生徒自身が困っていること、親が気づいているわが子の問題を学校に発信してほしいということを訴え、その方法を生徒・保護者に伝えていくことである。
- アンケート項目 1 「工夫した、充実した授業」及び項目 3 「総合的な学力の育成への対応」は、ともに高い評価である。項目 1 は、先生の教材の準備や創意工夫の努力の結果である。項目 3 は先生の生徒の生かし方、子どもの尊重のしかたである。5 を付けた生徒の割合が、項目



1では58%、項目3では67%であり、これぞ附属ではないか。生徒の自主性を尊重し生かすことが附属の伝統的な良さであり、このことは保護者にアピールしてよいのではないか。

- 公開研究会での授業を参観すると、生徒はよくがんばっている。放課後を学習の個別指導にあてると部活動指導ができず、部活動の生徒から不満が出てきてしまう。そういう意味から、アンケートで生徒によって評価の高低が現れるのは必至であろう。以上から、現状は、教員が高い意識の中で取り組んでいると判断できる。
  - 昨年度よりも質問項目が厳選されてよかった。附属中学校教員の使命感や自己目標が高いために、評価が低く現れているのではないか。附属中学校に赴任したばかりの教員と、附属中学校での経験が豊かな教員との自己評価の差異が分かるデータがあれば、教員の満足感を高めるきっかけになるのではないか。単年度のみでなく、昨年度の1年生と今年度の2年生というように、対象学年を固定して経年比較を行う方が説得力があるのではないか。全体的に見ると同じ母集団が昨年度よりも高い評価をしている。保護者は学校に関する情報が、生徒よりも圧倒的に少ない中で評価する。授業についても、授業参観の授業のみで判断している可能性もあることから、保護者固有の項目を設定した方がよいのではないか。
  - 附属学校の使命である研究のテーマを、教員が意識した成果が日常に生きている。2年生の評価の低さは、自分に厳しく周囲にもより高いものを求めている現れと判断でき、3年生に期待ができる。公開研究会が楽しみである。
- ② 生徒指導について
- アンケート3項目の質問すべてにおいて、前年度の結果を上まわっており、学校教育全体を通して、生徒の規律や規範意識を育てるとともに、個に応じた適切な指導・支援に取り組んでいることがわかる。
  - 前年度と同様の質問項目を比較すると、生徒・保護者の評価は高まっており、親身に丁寧に指導しようとする努力が成果となって現れていると思われる。ただし、アンケート項目6「規範意識・道徳性の指導」に関して、生徒・保護者と教職員の評価に落差があるのが気になる。附属中として生徒に求める規律や規範意識の内実がどうなのか、また指導の共通理解や協力体制がどういう状況なのか、再確認が必要であると感ずる。
  - アンケート項目6「規範意識・道徳性の指導」について、生徒・保護者と教職員の評価に驚くほど大きな開きがある。規範意識や道徳性の低い言動がまだ見られるのに、それを問題視しているのが教職員だけであるためであろう。言いにくいことも、生徒や家庭にもっと伝えていく必要がある。
  - 保護者のわが子や学校への期待の大きさが、結果に大きく影響している。規律で縛るよりも本校のようにゆとり（遊び）をもたせた方がよいと考える。

## (2) 学校の教育環境及び総論について

### ① 教育環境について

- アンケート項目7「施設・設備や備品の整備状況」に関する生徒・保護者の評価は昨年度より高くなっており、教職員の「安全・防災対策の進捗」に対する高評価とあいまって、学校全体で意識の高さや整備の努力がうかがえる。
- 学校予算に関しては厳しい条件の中で、教育環境の整備充実に努めてきたとのことだが、設置者である大学法人への働きかけは、今後も必要である。理科室での授業を参観した時に、ものを大切にしているという良さを感じた。反面、備品等の器材が陳腐化しているという教職員の評価についても、そうだろうと感じさせるものがあった。
- 大学にどんどん要求を出して、新しいものに挑戦していく姿勢を具体的に打ち出していくべきである。施設・設備・備品は見た目ほどよくない。大学法人はさらに予算を投入すべきである。
- ICT教育の充実やタブレット端末の効果的な活用について期待したい。施設・設備・備品を丁寧に使っているけれども型が古くなってきており、もっと最新のものがあつた方がよい。大学法人に予算要求をするべきである。
- 情報セキュリティや情報モラル教育への取り組みについても知りたい。

## ② 総論について

- アンケート項目8「社会で役立つ資質の教育」、項目9「学校行事・生徒会活動等の特色ある教育活動」、項目10「本校入学への肯定感」の3項目全てにおいて、平均値が4.5を上まわっていることから、生徒一人ひとりが高い目標を持って活動し、満足度も高い様子がわかる。保護者からも高い評価を得ており、今後も教育環境の整備充実と特色ある教育活動を進めていきたいと考える。
- 生徒・保護者ともに、附属中への入学をきわめて肯定的にとらえており、学校として高く評価されていることが実感される。また、アンケート項目8「社会で役立つ資質の教育」に対しても、生徒・保護者の評価は高い。しかし、同項目に対する教職員の自己評価は4.0を大幅に下回っており、「役立つ力」のとらえ方が、生徒・保護者と教職員の間で相違があるのかどうかも含めて、さらに踏み込んだ分析を待ちたい。
- 「附属には地域がない」という考え方は根強いのであろうか。生徒が地域に出て行くことが教育課程に全く関係がないことが、生徒の健全な成長上の妨げになっていないか、検討する必要がある。周囲の町はそれぞれの中学校区であり、その中学校と連携を図っているはずであろう。それならば、それぞれの中学校と連携して、いっしょに地域に出て行く等の道を探ってもよいのではないか。

## (3) 学校運営及び附属学校としての使命の遂行について

- 情報公開や家庭との連絡・連携について、分析にもあるとおり、保護者から一定の理解は得られていると思われる。一方、校内に目を転じると、教職員アンケート項目11「校務に関する校内体制の整備」の評価が一番低いことが気になる。教職員個々の優れた能力を生徒の指導に十分に結びつけるためには、教職員の協力体制が不可欠である。システムの課題だけでなく、ふだんのコミュニケーションの状況も含めた柔らかな連携ができていないかどうか、検討してほしい。
- 情報公開や家庭との連絡・連携、附属学校としての社会的使命に対する保護者の評価は高く、学校運営にも一定の理解が得られていると思う。しかし、校内の協力体制の構築に対する教職員の評価は他と比較して高くはなく、今後は、学校の教育活動について、教職員が共通理解し、効果的に意思疎通を図るなどの工夫が必要である。
- 教育に関する研究は、「分かる・使える・役に立つ」ことが必要であり、成果を公立中学校に広めてほしい。
- 附属学校としての社会的使命に立って、地域活動に関する教育実践が積み重ねられてきていると思う。今後も一つひとつの活動をより充実させていくとともに、より多くの教職員に広げ、附属学校としての使命達成に向けて取り組んでほしい。
- 保護者も学校が、社会的使命を果たしているとの一定の理解は持っているようだ。教職員は個々の活動が限定的で、活動場数が少ないためか、まだ高評価とまではいっていないが、教育実習生の指導等、公務の多忙さもあり、前向きに考えるからこそ、評価としてはやや低く判断しているところがあるのではないか。
- 全国に先駆けて新しい教育の方向を示すことが、附属学校の第一の使命であることはいまでもないが、同時に国や県から出される大きな教育課題（生徒指導の機能を生かした「わかる授業」など）について、いち早くそのモデルとなるような実践や授業を提起してほしい。年に一度の公開研究会の場でなくともよいから、随時発信していくことも附属の使命といえるのではないか。
- 地域連携・社会貢献について、表にあげられた活動や実践が行われ、充実してきていると思われる。より幅広く活動してもらうために、研修指導の分野で、よりいっそうの工夫が求められる。
- 人事交流を終えて各地に戻ったときに、附属中学校で経験したことを広めてほしい。
- 全国的に見ると時間外勤務時間が最も長い校種は中学校である。その上、附属中学校では、授業研究や教育実習生指導などの特殊性があり、その多忙が原因となり、附属中学校に勤務する魅力がなくなってしまうことが心配である。附属中学校に勤務したい気持ちのある人を募る今の人事交流の現状を考えると、附属中学校に勤めることの魅力を発信できるシステムができ

るといいのではないか。

(5) その他

- 教育実践研究の成果や教育研究会の実施報告などを、概略や骨子でもかまわないので、ホームページ上に掲載すると、附属中学校の研究に関する理解が深まるのではないか。
- 教員のアンケート結果の低さは、控え目すぎるのではないか。ずいぶん遠慮していると思われる。もう少し誇らしく思っているのではないかという印象を受けた。
- 特に地域という点が弱い附属では、学校評価は家庭との連携という意味で大きなウエイトを占めるのではないか。この結果を保護者にどう伝えるかが大事である。よいところは大いに強調し、課題は何かを学校として反省しつつも、家庭への協力を大いに要請するべきだろう。
- 来年度のアンケートにおいて数値目標を掲げ、保護者にも伝えておくことが大事である。明確な目標設定は、学校の活性化の大きな原動力になる。また、年次比較ができるように、しばらくは評価項目を変えないようにしたい。
- 学校評価の保護者の回収率が、前年の 67 %よりは上昇したが、それでも 76 %というのは、協力的な保護者が多いはずの附属にしては低い。この数値を上げることそのものが、学校への保護者の協力と信頼を増すと見える。